

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌

8

No. 211
Aug. 2015

特集:「うらじゃ」で地域がひとつに
～『表町おきやく連』の歩みと想い～



↑岡山うらじゃ 表町 おきやく連ブログより抜粋
<http://okyakuren.seesaa.net/>

特集！

うらじゃで地域とひとつに ～『表町おきやく連』の 歩みと想い～



平成 27 年 8 月 1、2 日、今年も岡山では夏祭りとして第 22 回「うらじゃ」が開催されました。あすなる福祉会が拠点をおく表町商店街の踊り連「表町おきやく連」に参加させて頂くとともに、その歩みと想いを伺いました。

「うらじゃ」とは？

「うらじゃ」とは、岡山に古くからある伝承をもとにつくられたお祭りです。皆さんは「桃太郎伝説」をご存知でしょうか。この桃太郎伝説には諸説あり、一部の伝承では、鬼は悪役ではなく岡山の発展に貢献した渡来人の「温羅（うら）」であったという説もあります。岡山のとある神社では桃太郎のモデルとなった「吉備津彦命（きびつひこのみこと）」と共に祭られています。

そのような伝承を基につくられたうらじゃは、岡山の文化を伝えるお祭りなのです。

今では岡山市の夏の恒例行事となり、沢山の人がこのお祭りの特徴とも言われる「温羅（うら）化粧」をして岡山の街を踊り歩きます。踊り連ごとに曲・振り付け・衣装が異なり、個性豊かなパフォーマンスを競い合います。

今年のうらじゃは、八月一日・二日に行われました。あすなるはこの二日間、岡山の中心部にある表町商店街が後援する「表町おきやく連」の一員として参加しました。

あすなるが表町おきやく連に参加して感じたこと

岡山の中心部にある表町商店街に移転したからこそのことってなんだろう？そんな思いが、うらじゃに参加するきっかけになりました。いつかは、あすなるで踊り連をつくりたいという思いもありました。しかし、あすなるとしても

うらじゃへの参加は初の試みであったため、他の踊り連に入りうらじゃについて勉強をさせていただこうという話から、既存の踊り連を探すことになりました。利用者も含め楽しく和気藹々と踊ることができる踊り連はないだろうか……。それが、岡山一大きな商店街である表町商店街の主催する「表町おきやく連」との出会いのきっかけとなりました。

「表町おきやく連」の代表である矢部さんに連絡を取り、あすなる福祉会として利用者と踊り連に加入することはできないかとお伝えした時は、一体どのように受け止められるのだろうか、と不安な気持ちもありました。しかし、矢部さんは「たとえハンディキャップがあつたとしても、一緒に踊ればよいのでは」と快く引き受けて下さり、あすなる福祉会の参加が実現されました。

練習に参加してみると、「踊りをうまく踊れることが大切なのではなく、皆が楽しく参加出来るのが一番」「練習をハードにこなすのではなく、その人のペースでゆっくりとお気楽に」という「表町おきやく連」のスタイルに、親しみやすさを感じました。また、スタッフの方々ははじめ、一緒に練習をしている方たちからごく自然に受け入れていただきました。その自然さや皆さんが持つ明るさにとっても元気をもらえました。そんな皆さんの良さが、うらじゃ本番でみんなが一丸となつて楽しめるパワーとなつていてと感じました。

「表町おきやく連」に加入してうらじやに参加し、うらじやとどう関わっていきたいかという思いも変わりました。当初は、あすなるの中で踊り連をつくって出場し、地域の方々と共に、岡山のお祭りであるうらじやを楽しみたいと思っていました。しかし、「地域と共に」「参加者と一体になって」うらじやを楽しむためには、私たちが地域に入り、地域の一員としてうらじやに参加することが大切だと気が付きました。あすなるとしての参加、地域の一員としての参加、どちらも「地域に参加する」形ですが、誰もが垣根なく一体となって踊ることができた感動は、「表町おきやく連」に加入し「地域の一員」として参加をしたからこそ得られた思いだと感じています。

「明るく、楽しく、景気よく、笑顔満開、お氣楽に」を合言葉に、誰もが気兼ねなく参加できる「表町おきやく連」はどのようにしてつくられたのでしょうか。また、そんな「表町おきやく連」を支える表町商店街はどのような思いをもってうらじやを応援しているのでしょうか。

表町おきやく連代表の矢部さんに

お話を伺いました

——うらじやができたきっかけは？

矢部さん 一九九四年に岡山青年会議所の方が中心となり、市民参加型のお祭りを作ろうという

ことでもかたちになったのがうらじやでした。第一回・第二回のうらじやでは踊りとメイクというコンテンツだけではなく、トロツコレースがあったり、演歌歌手のステージがあったり、気球が拳がったり、フォーミュラーカーの展示があったり……。いろんな分野で頑張っている人たちが集まった「発表会」のようなものでした。しかし、「みんなが等しく」「市民参加型」というお祭りならば、作り手も参加する側も等しく同じところで入っていけるようなお祭りのスタイルに作り替えなければいけないということで、当時の実行委員会の方たちが、うらじやの踊りとメイクに特化したお祭りに作り替え、第三回のお祭りから今のスタイルになったそうです。

——うらじやの由来は？

矢部さん 普通に考えれば、岡山は悪い鬼を退治した桃太郎が主人公でいいんだけど、岡山に伝わる桃太郎伝説をひも解いてみると鬼のモデルの温羅（うら）は悪い人ではなく、吉備の国の発展の礎を作ってくれた英雄という言い伝えがあります。史実は分かりませんが、岡山では鬼Ⅱ温羅との戦いに勝った桃太郎も、温羅も等しく祭られています。あまり知られていないことなのですが、うらじやではこの部分に光を当てて、このお祭りのテーマでもあるユートピア的な「共生と融和」

というコンセプトにピッタリではないか、ということになり、うらじやというものがはじまったそうです。



——表町おきやく連が立ち上がり九年という歳月がたっていますが、立ち上がりのきっかけは？

矢部さん 今年で二二年目を迎える「うらじや」ですが、「うらじや」が始まって十年目くらいは、表町商店街としてのうらじやの参加は、場所の提供・給水のボランティア程度、それ以外は特にお手伝いをする機会がなかったんです。むしろ僕はアンチうらじや派で、「なんでこんなにうるさい音で商店街の中を通るんだ、商売ならんじやないか」と思っていました。ある日、当時の「うらじや」実行委員長とお話しをする機会があったの

で、商店街の現状を伝え、共によくよく話し合ってみると、うらじや実行委員会の思いは「岡山の地域に根差した、岡山市民が自ら作る市民参加型のお祭りにしたい、作り手と参加者が等しく行えるお祭りにしたい」という思いで「うらじや」をしていると聞きました。それならば、岡山で一番古くて歴史があり、岡山で一番大きい商店街である表町商店街が、岡山のために、岡山市のお祭りであるこの「うらじや」に何も協力しないわけにはいかないのでは、だったら街の人間として、岡山の間人として協力しましょう、ということ、会場の運営を自主的にお手伝いすることになったんです。それが一二年くらい前の話だったでしょうか。

第一回のうらじやだったと思います。台風になり、外の会場の演武がすべて中止になったことがあります。唯一、日曜日であれば表町商店街で受け入れられるということになり、急ぎよスケジュールを組み直し、全ての会場を表町で受け入れ、「うらじや」を実施したことがあります。それはやはり、表町商店街が主体的に関わっていたから実現できたものであったのでしょうか。

一年二年とやっていくうちに、商店街がうらじやに対して、踊り連を受け入れるだけではなくもつとできることがあるのではないか、と思い始めました。当時よく僕が聞いていたのは「うらじや楽しそうだね。でもどうやってチームに入ったらいいのかわからない、どうやって踊れるんだろ

う」という意見でした。今のよう一般募集しているチームも少なかったし、一般募集をしているも「鬼」という漢字がチーム名に入っていて、なんとなく「入りにくいなあ」というチームが多かったです。だったら、うらじやの入口のようなチームがあってもいいだろうと。商店街ができることとして、商店街の商人衆とお客様と一緒にあって、うらじやと一緒に参加して楽しむ一般公募のチームを作ろうと思ったのがきっかけでした。裏方としてのチームの受け入れをするだけではなく、商店街として踊りに参加する事、「うらじや」に出てみたいという人を受け入れる事も商店街という公器ができる社会貢献の一つと考えたんです。



—— 沢山の店舗がある商店街がまとまり、うらじやを応援しよう、おきやく連を作ろう、という流れになったのは凄いいことでは？

矢部さん 人から見ると大変だったのかもしれないけど、やるときは一生懸命だったから苦労だとは思っていません。やる時も僕一人ではなかつたし、「商店街でうらじやを手伝おう、自主運営しよう」というのも小さな実績を積み重ね、

少しずつ進めていきました。表町商店街には八つの街があり、それぞれに青年部、事業推進部などがあります。そうした各街の担当の方たちに話しを通し、了解や協力を得てはじめていきました。自分がすべてを中心でできるわけではないので、うらじやを担当して二年くらいしたら次の人へバトンタッチしましたし、その引き継ぎもスムーズにすることができたと思います。それから先輩たち・仲間たちがうらじやの表町会場を表町に合ったスタイルに作ってってくれました。ただ、全ての人がうらじやに賛成している訳ではありません、商売にならないため勘弁してくれという人もいます。ただし、表町の理事会で毎年決議をしてうらじやについて決めているので、「表町商店街の事業」として協力してもらっています。

実をいうと、表町おきやく連は、もう二年ほど早く始めたかつたんです。だけど、先輩方から「まだ早い」と止められました。当時はその意味が分からなかつたし「なぜはじめられないのか」と疑問に思っていました。しかし「みんなに思いが伝わらない、根回しもできていない、会場運営だった体制も立てられていないのに『チームを作り出す』というわけにはいかない」と言われたのです。今思えば、あの時良く止めてくれたなあ。止められなかつたら、僕は勝手に暴走して気がついたら誰も協力してもらえない状況になっていた

るうから。先輩方からそのように言われた当時は、納得できなかったけど一人ではできないわけではないし、協力体制がとれないのであればできないなあと思います、待ちました。二年後、立ち上げに対して（商店街の先輩方からすれば半ばあきらめだったかもしれないが）ゴースインが出て、チームを立ち上げました。理解を得られて立ち上げた分、沢山の人に喜んでいただいたと思っています、だから表町おきやく連は九年も続いて言っているのかなと思います。

——人を募ったり、表町おきやく連が今のスタイルをつかむまでに、いろいろなご苦労があったのでは？

矢部さん 「本気で賞をとるチーム」を作らなことを、僕自身が少し目指していたこともありましたが、一年目からそれはできなくて、参加者を集めるところから始めなければいけませんでした。

一般募集をしつつも、家内にも協力してもらい、ママさん友達を誘ってもらったりしました。最低ラインを確保しないとチームとして成り立たないため、人によっては直接口説いたりもしました。それで四十人ほど集まったかな。

チーム発足一年目ではつきり分かったのは「商店街が作るチームなんだから、夏休みに親子で参

加してもらったり、夏休みの思い出作りに気楽に参加してもらいたいなあ。」「他のチームのようにかっこいい踊りは練習もハードだし参加できないけれども、表町おきやく連だったら参加してもいいなあ。」というチームの方が、商店街らしくて親しまれやすいかもしれないということです。



一方で、チームスタッフや先輩から「やるならば本気で賞をとるチームを目指さなければやる意味がないよ、なぜそこを目指さない？」と言われたこともありましたが、でも、目的の根幹がブレると、今まで気楽に参加していた人たちもいなくなってしまう。本気で賞をとるチームに参加したいのであれば、他のうらじやの仲間とは良い付き合いをしていたので、そこを紹介することも出来る。表町商店街が果たす役割は賞をとるチームを目指す事じゃないんだろうな。僕の中でそこがずっとブレなかったし、活動を続けていく中でそのことに気づかせてもらったから今に至るのかなあという気がします。

ゆるく気楽に参加できるスタイルが楽しかった

たから、表町おきやく連は何回かしか練習しないし、本番が終わってからのどこかのお祭りに踊りに行くわけでもない。だけれども、リピーターが本当に多くて、「またこの時期が来たから、いつから募集が始まりますか？」と言ってくれる人がいるし、参加しているお母さん方がお友達の家族を誘ってくれて「面白いから一緒にやろうよ」と。そんなことが自然にできている今の表町おきやく連のスタイルが無理なくみんなが楽しめるスタイルとして、定着しているんだと思います。お客様と一言で言っても、今の表町のお客様だけを指すのではなく、過去も未来も含めた表町のお客様。そういう方々と増々ご縁が繋がればいいかなあと思っています。



↑うらじや当日参加者とともに
(写真中央はっぴ姿の矢部さん)

—— やっていく中で感じた苦労は？ やりがいいや面白さは？

矢部さん やっぱり想像と実際は違いますね。でも覚悟を決めて始めたことだから。いろいろな意見が出る中で、他者の意見は聞くけど、自分の中で表町おきやく連としてブレてはいけない所はゆずりませんでした。そうでなかったらチームとして回らなかつた。周りからの不満はあつたのかもしれないけど、自分としては間違つてなかつたと思つています。でも、参加者との接し方は迷いながらでした。毎年家内とも話すんですが、おきやく連の人たちはみんないい人ばかりなんですよね。本番を見れば、おきやく連の参加者もつといい人だと思つようになると思いますよ。いろんな人とやれて、いろんな知り合いができたというのは、僕にとつて嬉しいことだし。苦労よりも楽しいこと、報われていることが多いので、楽しいばかりです。



↑練習風景

子どもたちの笑顔を見ると癒されるし、お母さんや子どもたちが一緒に写真を撮っている姿や、チームスタッフが子どもたちの写真を撮っている姿を見ると、「表町商店街という名のもとに集まってくれて夏休みのいい思い出作りをしてくれたんだな、ひとつ役割が果たせたな」と思えます。時々賞に引つかかることがあるので、それはそれでみんな大喜びするし。本当だったら賞をとれるようなチームじゃないかもしれないんだけど、おきやく連のコンセプトが審査員の方たちに伝わっているから、賞に引つかかっているのかなと思つたりします。

—— あすなるを受け入れてくれた理由は？

矢部さん あすなるスタッフと話をして、不安がないと言えば嘘でした。僕自身がどう接したらいいのかわからなかつたし、子供たちは素直なので、大人たちは理解できたとしても、子供たちが素直に思つたことをあすなるの利用者さんに、ぱつとぶつけるようなことがあつてもいけない、と思つていたので。

でも、参加する前に話しをさせてもらつたら「あ、なんとなく大丈夫だな」という気はしました。これって、やる前から「こんなことはいけない」「あんなことはいけない」というよりは、やってみて、やりながらちよつとずつ起こることに対応した方が自然だなと。子供たちにとつても、

マイノリティに珍しいということではなくて、普通にあることなので、何かあつても一つずつクリアしていけばいいのかな、と思つていました。だけど、幸いなことに全然そういうことはなかつたんですよ。「あ、ほらやっぱりできましたよ」って。最初からあれこれ心配するより、なんとなくルールだけ決めて・・・あとは、あすなるスタッフも一緒に参加すると聞いて、じゃあ大丈夫、と思つたのが一番ですかね。



—— どのような表町おきやく連にしていきたい？

矢部さん たぶん、うちはずっと変わらなくてよくて、うらじやの入口のようなチームですね。商店街が夏休みの思い出作り親子や三世代、一般の男女皆が参加しやすい所であつたらいいのかなあと。コンセプトも「明るく、楽しく、元気よ

く、笑顔満開、お気楽に」で。その代わり、皆さんにお願いしたいのは、表町商店街の名前を背負って踊ってもらうので、見ている方に元気だね、明るくて楽しいね、と思ってもらえるよう踊ってもらうことです。そんな様子から、表町は頑張ってるね、面白そうだね、ということがお客様に伝わればなあと思っています。参加している人たちも「表町商店街ってこんなにあつたかくて自分たちも気楽に参加できる場所なんだ」と思ってもらえて、何かあつたら、また表町商店街に来てもらって気軽にチームスタッフのお店に遊びに行ったり…、そんなご近所づきあいのようなチームができたらいいなあと思っています。



↑うらじゃのタペストリー・のぼりを制作風景

表町商店街というのは、百貨店のような岡山市民の晴れの日をお手伝いするお店があつたり、小さな専門店のようにお客さんの日常のお手伝いのできるお店があつたりします。いろんなお店があります、何が唯一変わらないのかというと、地域の方に必要とされるお店じゃないと、いけま

せんね。地域住民やお客様からご近所づきあいのできるようなお店や街であり、私たちの大切な街だと思ってもらえるような表町にしたいと思っています。

——うらじゃをやることで、商店街が一つの魅力ある町として存在できて、商店街がうらじゃを盛り上げていける。そんないい関係でいられるのではと思いました。他の方もそう思われているのでは？

矢部さん つかはそうなればいいなあという思いはありますが、今は道半ばで楽しんでもらっているという感じ。これは続けることによつてそうなるっていくんだらうなあとは思っていますね。

——商店街は地域と密接なつながりが持てる場所。どういふ商店街にしていきたい？

矢部さん 地域の方から「あそこに行けば私のことをわかつてくれる店がある」「私にとつて必要なお店がある集合体」じゃないといけないと思っています。極端な言い方をすると「ないと寂しい」と「なくちゃ困る」のは全然違う。「なくちゃ困る」のはちよつと行きすぎで、「ないと寂しい」のも郷愁に浸っているだけで当事者意識がなく、

「昔」という思いで担ってしまうところがあります。「ないと寂しい」のと「なくちゃ困る」が、ちよつどいいバランスでミックスされて、岡山市民の誇りと言える場所であつてほしい、そういう風に思っています。

良くマスクコミから、「イオンができてどう思いますか？」と聞かれますが、西日本の旗艦店として位置付けられているものが岡山駅付近でできるというのは、それは市民の自慢でいいと思うんですね。「岡山にはこんなすごい施設が出来たんだぞー」って。それと同じように「岡山市民の生活を身近で支えてくれていて、何か困ったときに相談すればたいいていのことは助けてくれるし、『何かあればあそこ行きな』と気軽に近所の店を紹介してくれるし、私が本当に困ったときに尋ねていけるお店がたくさんあるのが表町商店街」と、岡山市民にとつて誇りと言える場所となるような、そういう商店街にしたいなあという思いがあります。

——うらじゃをどのようなお祭りにしていきたい？

矢部さん これも表町商店街に対する思いと一緒にです。携わっている一人としては、岡山市民の自慢であり、誇りになってほしいというか。岡山にはうらじゃがある、ということを他者に話して

くれている子たちも出てきました。今はまだ祭りなのかイベントなのかわからない感じだと思いますが、これが何年かしていくと「文化」になっていくような、そんな風になってくれればいいなと思っています。「夏といえばうらじやでしょ！」というような。うらじやが出来てまだ二二年です。十年以上前にうらじやのコアなメンバーと話していたのは、運動会の時期になったら小学校や中学校からうらじやの音楽が聞こえるようになってほしいなあと。今は何となくそういう風になっているし。子供のころからうらじやがあるのが当たり前の世代の子たちが裏方や実行委員会に入ってきてくれたら、それはまた全然違うよね、と話していたんです。また学生時代からうらじやに携わってきた子たちが「岡山に遊びに来ます」ではなく「うらじやのときは岡山に帰ってきます」と言ってくれるんですね。「帰ってきます」というのは凄い言葉だよなあと、こいつらは「帰ってきます」というのか、と。凄く嬉しくて。(笑)

そういう世代が大人になり、社会的にそれなりのポジションにつき子どもを育てはじめた時にはじめて岡山の文化になっていくんだろかなあと思っています。

あすなるの利用者の中には、小学生の時にうらじや踊った人たちもたくさんいます。そういう意味では、うらじやが根付いてきたのかなと思

ったのですが。

矢部さん そうかもしれないですね。二二年ですからね。うらじやがブームだけで終わらなかつたのは、青年会議所の方たちが立ち上げのときに「市民参加型で、市民と一緒に作るんだ」と覚悟を決め地道に実績を積み上げたからで、一過性のもので終わらない様に私たちもこれからも出来る努力は続けないといけませんね。



↑最後に皆で記念撮影！市役所通りパレード後

あすなるから参加したFさんの感想

——うらじやに参加したきっかけは？

表町に移転して、表町にうらじやのイメージがあつたのであすなるの職員からおきやく連のことを聞いて参加しました。

——うらじやに参加してみ感想は？

とても楽しかったです。皆さんとても優しく、親しみやすい人もいて楽しかったです。

本番はとても暑くて大変でしたが、なんとか二日間をのりきりました。たくさんの方がいて緊張しましたが笑顔で楽しく踊れました。

おきやく連の人たちとうらじやを楽しく踊れました。また、来年にはあすなるからたくさんの方が参加してくれたからいいなあとと思います。

晴れ晴れ大空 吉備の国

歌え 踊れ 鬼祭り

晴れ晴れ大空 吉備の国

温羅じや 温羅じや

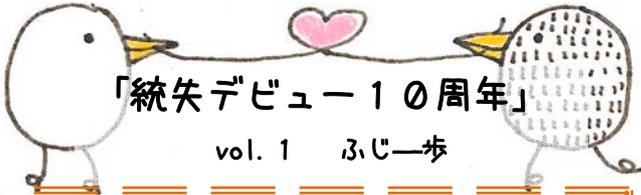
温羅じや



投稿コーナー



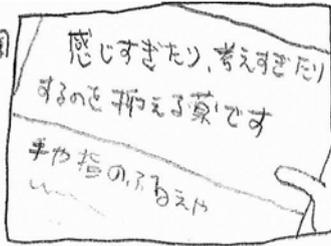
梅雨が明けて、暑い日が続いていますね (+_+) こんな暑い日にはかき氷が食べたくなります ☆ 私は練乳をかけて食べるのが好きですが、みなさんは何味が好きですか？



「続失デビュー1の周年」

vol. 1 ふじ一歩

葉の効能の補
に書かれている
言葉。



それって

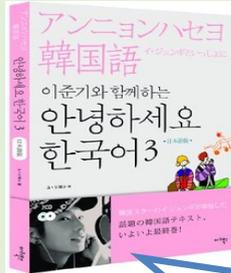


自分の人生をかり
て守りたいもの
なのにな。



「私は今、韓国語を学んでいます。
半分韓国語を覚えました！」

사카모トウがより



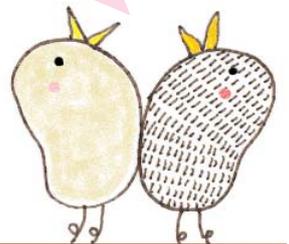
無限の習字の道
君は諦めていな
誰にでもある救めたる可能性
敵知はなかなよ千くでキキに
不安になすてしまつたかも
徐々に向ふ持って構うで
必ずや上達する事ができる
逃げる事は容れたいけど
未来を見て道のは
キキと何が見えそくるはず
てみ今こそ無限の習字をたか
翔こう

英聖

観たり、読んでくれ
る人の心に響かせ
「感動」して欲しい。
何事にも限定する事
なく前向きに挑戦し
て頑張ろうという想
いで作品にしている。

ぱるっこ広場

ぱるっこ広場



感想・投稿 募集中!
詩、俳句、絵、ジャンル不問
です。郵便、メール、fax 等で
ご投稿 下さい♪ 待ってます★

古楽日和 ニクニク日和

藤井健喜

七月の中旬に台風十一号が西日本を縦断したりなどして、今年も長雨になって夏らしくない天候になるのだろうかと思ったりもしていたが、それ以後は夏らしい暑さが戻ってきた。この原稿を書いているのはまだ七月なのだが、いまのところは夏らしくない天候を気に病む必要はなさそうである。

こつとも暑いとやはり欲しくなるのはアイスコーヒーである。筆者もカフェエモモに行つたときにはたいていアイスコーヒーを注文している。そして帰りのバスを待つあいだには、バスステーションの待合室で缶コーヒーを買って飲んでいる。

以前筆者は、缶コーヒーの質が落ちたとこのコラムの中で嘆いたことがあった。その気持ちに今も変わりはないが、最近これは結構いいかも知れないと思う缶コーヒー(実際はポトルコーヒー)に出くわした。それがサントリーの「プレミアムボス・ブラック」だ。

このポトルコーヒーは原材料に香料や乳化剤が入っているものの、「最近の缶コーヒーには見られなかったほどの「コーヒー感」がある。欠点はいえ、価格が若干高いこと(百五十円)だろうか。じつはこのポトルコーヒー、すでに今年の三月辺りから販売されていたらしい。それなのに今までまったく気がつかなかった。ともあれ今の段階では、このプレミアムボスのブラックが一番いいような気がしている。



お菓子作りサークル

開催しました♪

七月三十一日(金)お菓子づくりサークルをいたしました♪今回、作ったのは「抹茶のわらびもち」です。

参加者は少なかったのですが、出来上がりは完璧で、今まで食べた「わらびもち」の中で一番美味しかったです☆

つぶあんは、参加者の方がつくったものを持参して頂き、甘さが絶妙でとても美味しかったです。このように、お菓子作りサークルでは月に一度、参加費三〇〇円以内で企画しています。

興味のある方は、ぱるおかやまスタッフまでお気軽にお問い合わせください。

TEL: 086-201-1720

あんこ付きわらびもち



表町土曜夜市

七月十八日土曜日は、表町商店街の土曜夜市でした。土曜夜市は、商店街の各店舗の代表が集まり、何をするのかを決めます。かき氷・射的などなど、出店の担当は商店街の中にある店舗ごとに割り振られますが、あすなる福祉会はヨーヨー釣りの担当でした。あすなるが移転して初めての取り組みであり、物品の準備は他の商店街の方たちと協力して行いました。

当日は多くのお客さんで商店街中が埋め尽くされ、終始にぎやかな様子でした。出店を運営するため人手が足りない！とスタッフ間では大慌てだったので、多くのメンバーさんが積極的に準備やヨーヨーづくり、売り子などをしてくださり、とても心強かったです。ありがとうございました！



土曜夜市のような商店街の催し物も、商店街のお客さんや他店舗の方々
と交流する貴重な機会
です。

来年の土曜夜市は更に
パワーアップ(?)した
あすなる福祉会にご期待
ください。



フットサル

全国大会に向けて...

七月一日(土)フットサル岡山交流会 & JSFA主催 第一回全国大会代表選手選出試合が慈恵病院の体育館で行われました。

あすなる福祉会からは七名の選手が参加し、その他岡山県各地からも参加がありました。開会式やウォーミングアップの後に二チームに分かれて選抜試合を行いました。試合後、MIP賞とMVP賞の発表がありました。MIP賞とは最も印象的だった選手に与えられる賞なのですが、なんとあすなるメンバー選ばれました！



後日、選抜試合の結果から代表選手の選考結果が届いたのですが、驚きの結果となりました。なんと、あすなるから五名の方が全国大会代表選手に選ばれました！皆さんの日々の努力が実りましたね。本当におめでとうございます。フットサルはいつでもメンバーを募集しています。初心者の方でも構いません。次回フットサル八月二七日一三時から。お問い合わせ086-201-1432 丸橋まで

畑でクツキング

「あすてつぷ」では毎週畑作業に出かけています。採れた野菜で七月一日(水)には肉なし(笑)青椒肉絲と麻婆茄子、胡瓜と茄子の浅漬けを作りました。採れたての野菜はお日様をいっぱい浴びた太陽の味がしました。

また、七月一五日(水)にはかぼちゃやトウモロコシも収穫し、バーベキューもしました。今回収穫させてもらった野菜の多くは、メンバーさんのご家族の方にご協力をいただいたものです。いつも本当にありがとうございます！

あすてつぷで植えた苗たちも、現在ぐんぐん成長中！次は何を作ろうかと、今からとても楽しみです。



夏こそ★ハイキングへ Let's Go!

七月二三日(木)、台風の影響により、なんとなく雲が厚く大気が不安定な中でしたが、健康講座「ハイキング」で岡山市南区と玉野市の堺にある「怒塚山(いかつかやま)」に登ってきました。



前日の雨で足元が悪いなかでの山行でしたが、湿気を帯びた苔や、葉っぱの上で輝く水滴などに癒されながら頂上を目指します。途中からは晴天にも恵まれ、ところどころ開けた場所では岡山平野を一望。山頂はさほど眺望はよくないのですが、木立ちを吹き抜ける風の心地よさで元気回復！

九月には恒例の山登りを企画しています。

九月二六日(土)佐伯天神山を予定しています。詳しくはあすなる各事業所の掲示板上にて！



七月『癒し場』開催しました♪

『発達障害や対人関係が苦手な人の癒し場』

七月二一日(火)癒し場を開催しました。一一名の参加があり、皆さんから出して頂いたテーマは次の五つです。①辛い事があったのに、周囲と上手くいかず味方がいない時に、皆さんはどう対処していますか？②人と比べてしまう、自己嫌悪、人と比べないようにする方法は何か有りますか？③普通って何だろう？個性って何？④予定の無いときほど時間が長い、一人で時間をつぶそうとすると焦ってしまふ、上手な時間の使い方は？⑤つつい食べ過ぎしてしまう、どうしたら良いの？

まずは参加した皆さんで、それぞれの想いを共有(おしゃべり)します。続いて先程のテーマに関連して、今月のイイトコサガシ(良いところを探す・リフレミング)では『普通(標準)でないところの良いところ』をテーマにしました。『自分はクズではなく星クズです』『競争率が低い』『望みががぶらない』『目立つ』『特別な経験を持っている』『独特』『独創的』『自分らしい、自分を持っている』『自分をよく知っている、考えている』『普通の大切さがよく分かる』等、人がオンリーワンである事のメリットを沢山挙げました。孤独・特異という苦しみの中で『自分とおしゃべりする中でも』『自分と同じような苦しみを持つ人がいる』『安心』が生まれ、参加者全員が、日々の生活に対して『自分は自分で良いんだ』と少し自信を深めたと感じています。

◆次回予定◆

8月12日(水)13時～

多くの方の御参加を心からお待ちしております。見学・途中参加も歓迎です！

*他の参加者を批判したり改善を強要しない事を第一のルールにしています。



INFORMATION

8月の予定

8月		
7	金	ソフトボール 15 時
8	土	お菓子づくりサークル 13 時
9	日	
10	月	
11	火	PC 講座 10 時 卓球サークル 13 時あすなる出発 13 時 30 分現地集合
12	水	WRAP10 時 つどい 10 時 30 分 手話サロン 11 時 癒し場 13 時
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	PC 講座 10 時
19	水	WRAP10 時
20	木	健康講座「ジム」13 時
21	金	座談会 13 時～14 時 ソフトボール 15 時
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	PC 講座 10 時 卓球サークル 13 時あすなる出発 13 時 30 分現地集合
26	水	
27	木	健康講座「フットサル」13 時 女子会 14 時
28	金	ばるランチ 10 時 図書館サークル 10 時 手芸サークル 13 時 30 分 ソフトボール 15 時
29	土	眼鏡っこ 13 時 30 分
30	日	
31	月	
9月		
1	火	
2	水	

8月13日(木)～
15日(土)は
お盆のため
お休みします。

※プログラム・サークル活動に参加するには、すべて前日までに連絡が必要になります。参加者が多い場合には前日より早く締切らせていただくこともあります。早めにご連絡ください。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行：社会福祉法人あすなる福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町 3-7-27
- 編集：ばる・おかやま
- TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713
- E-mail: pal-oka@mx35.tiki.ne.jp

7・21・28日(金)

ソフトボール！！

みんなで楽しみながら、外で体を動かそう(^o^)

時間 15 時～17 時

場所 百間川グラウンド

※送迎希望の方は必ず事前連絡を！

※自転車やバイクでのグラウンドへの乗り入れはご遠慮ください。

めがね
29日(土) **眼鏡っこ** Art of Asunaro

漫画・小説・絵・詩などを書くこと
読むのが好きな人の集い★

自分が書いたり、描いたりしたものを誰かに見てもらいたい人や、見たり読んだりするのが好きだから作品を是非見たいという人集まれ～♪

もちろん眼鏡をかけてなくても参加オッケー！

時間 13 時 30 分～

場所 ジョブサポートセンターあすなる

21日(金) 座談会

本好き！映画好き！漫画好き！集まれ～

新しい座談会ができました！！今まで読んできた本や映画・漫画などをお互いに紹介し合おう☆

時間 現地活動時間 13 時～14 時

場所 ばる・おかやま 2 階

12日(水) ❀癒し場❀

発達障害・人間関係で悩んでいる人のいやし場

自分を受け入れてくれる誰かを探していませんか？

時間 13 時～

場所 ジョブサポートセンターあすなる

27日(木) おしゃべり大好き女子集まれ！

女子会♪

毎月1回、楽しい雰囲気の中、テーマを決めて女子トークに花を咲かせています。みんなでお出かけの企画とかしてみませんか？(^-^♪

時間 14 時～15 時半

場所 ばる・おかやま 2 階

<8月のピア電話相談日>

	火	水	木	金	土
	11	12	13	14	15
AM	○	○	休	休	休
PM	○	○	休	休	休
	18	19	20	21	22
AM	○	休	○	休	○
PM	○	休	休	休	休
	25	26	27	28	29
AM	○	休	○	○	○
PM	○	休	○	休	○

ピア電話相談とは
同じような病気の経験をしたピサポーターグループクローバーが、お電話であなたのお悩みをお聞きしています

ピア
電話相談
(086)
201-1719

お気軽におかけ下さい！